〈小学部〉

生活単元学習指導案

昭和56年11月25日（水）

小学部3組（高学年）男子5名女子2名　計7名

指導者　高木寛治　上村伸雄

1. 単　　元　かいものごっこ

2. 単元について

(1) 精神薄弱児教育のねらいは，子どもたちが，それぞれの能力に応じて，社会生活ができるようにすることである。このねらいをふまえると，この子どもたちにとって，日常生活に必要な買い物がうまくできることは，将来，社会生活を営むうえで，きわめて大事なことの一つであると言える。

ところで，精神発達の遅れている本学級の子どもたちの場合，社会性が低く，言語能力や金銭の処理能力などが劣るために，親に買ってもらったり，店まかせの買い物になったりしがちである。このような買い物のしかただけでは実社会で通用するとは限らない。また，物を買うという経験の不足のため，自分の好きな物を買えるという喜び・夢，欲しいという欲求などを持つことができない。したがって，まず，子どもたちを店の見学に連れて行くことによって視野の拡大を図るとともに，「欲しい」という気持ちを起こさせる。次に，買い物に行く時には，お金を持って行くことやお金がないと物が買えないことをわからせる。そして，買い物をする場合のあいさつや店員とのことばのやりとりに慣れること，品物に応じた代金を支払うことができるようにすることなどが必要である。と同時に，いろいろな商店があることを知り，それらの店で売っている品物がだいたいわかることも必要である。

そこで，本単元「かいものごっこ」では，日常子どもたちにとって興味・関心の高い食べ物，文房具，おもちゃなどを準備して，買い物ごっこをしたり，買った物を食べたり，使ったり，遊んだりする学習をしようとするものである。これらの学習は活動的で，子どもたちの興味・関心に支えられ，しかも彼らができることをくり返し何度も学習するので，買い物についての関心を高めることができる。これらの学習を通して，身近に必要な物は自分から進んで求められるようにし，おつかいもできるようにしたい。そうすることによって，子どもたちに，買い物に必要な知識・技能，態度を身につけさせ，生活に対する積極性を養い，一日一日をより豊かに充実したものにしていこうとするものである。

(2) 本学級の子どもは，4年生女子1名，5年生男子1名，6年生男子4名，女子1名の計7名で編成され，知能指数はIQ30からIQ55，精神年齢は3歳6か月から6歳4か月ほどであり，あらゆる面において個人差，能力差が大きい。

たとえば，硬貨の区別（お金とそうでない物との区別や，10円玉と10円玉が同じものであるということなど）は全員できるが，Y・KやF・Mは，10円硬貨や100円硬貨などの名まえがわかっていない。また，貨幣の価値関係（100円＞50円＞10円＞5円＞1円）を完全に理解し

ているのはＴ・Ｓ一人だけである。さらに，値段に応じたお金を出す能力は非常に低く，10円単位の計算をまちがえてしたり，硬貨を組み合わせたお金の支払いはほとんどできなかったりする。ましてや，おつりのある買い物となると，ほとんどが店屋さんまかせで，おつりの確かめや計算などできていない状態である。

また，買い物に行った時のあいさつや，必要な物を買う時のことばに関しては，Ｔ・Ｓを除いた６人は，発音不明瞭のためことばがはっきりと言えなかったり，途中で省略したりしているので正確に言うことができない。加えて，買い物をする時のことばを理解していない子ども（Ｙ・Ｋ，Ｆ・Ｍ）もいたりする。

一方，子どもたちの学校での遊びの様子を見ていると，お互いに相手の言うことをなんとか理解して，ままごとやミニカー遊び，チャンバラごっこなど，いろいろなごっこ遊びを楽しそうにしている。

以下，子どもひとりひとりのおおよその実態を示すと次のようになる。

		A・M（4女）	N・M（5男）	S・E（6男）	T・S（6男）	M・T（6男）	Y・K（6男）	F・M（6女）
生活年齢		9：11	10：11	12：2	11：8	12：0	12：0	11：7
知能指数（田中ビネー）		51	34	49	55	31	30	36
精神年齢		5：1	3：7	6：0	6：4	3：7	3：6	4：2
硬貨の名称（1円～100円）		全部わかる	全部わかる	全部わかる	全部わかる	全部わかる	全然わからない	全然わからない
貨幣の価値 100＞50＞10＞5＞1		5＞50＞10＞100＞1	100＞50＞5＞10＞1	100＞10＞50＞5＞1	100＞50＞10＞5＞1 正解	100＞10＞1＞50＞5		
金額の読み方	10円単位 50円以下	できる	まちがえる	正しくできる	正しくできる	正しくできる	できない	できない
	10円単位 90円以下	できる	まちがえる	まちがえる	正しくできる	正しくできる	できない	できない
	100円単位 500円以下	できない	まちがえる	正しくできる	正しくできる	できない	できない	できない
	10円単位 200円以下	できない	まちがえる	まちがえる	まちがえる	できる	できない	できない
値段札を読む（10円～150円）		10円単位と100円は読める	10円は読める	1の位が出てくると読めない	左に同じ	左に同じ	10円は読める	10円は読める
ごっこの役割り意識		簡単な役につける	指示が必要である	種々の役につける	左に同じ	左に同じ	指示が必	左に同じ

ことば ・ごめんください ・〜をください ・いくらですか ・ありがとうございました	小声だがなんとか全部言える（発音不明瞭）	途中省略があるがなんとか言える（発音不明瞭）	言える（発音不明瞭）	正しく言える	早口だがなんとか言える（発音不明瞭）	指示しないとほとんど言えない（発音不明瞭）	左に同じ（発音不明瞭）
備考	身体虚弱	ダウン症	ダウン症	脳性マヒ（右半身不随）	自閉	ダウン症	ダウン症
	学習に喜んで参加するが，指先などの機能が劣り手間取ることが多い。	積極的に学習に参加する場面もあるが，集中力に欠けやすい。	身勝手な行動が多いが，リーダー的存在になる時も多い。参観者がいるとはりきる。	積極的に学習に参加し，リーダーとして活躍することが多い。参観者がいると緊張しやすい。	自閉傾向があるため，落ち着かなく，興味・関心が移りやすく，学習に集中しない。	意志の疎通が不十分で，簡単なことばや動作指示により学習に参加できる。	読む力が劣るため学習に集中しにくい。（弱視）

(3) 以上のような実態から，本単元の指導にあたっては，次のような点に留意して指導していくようにした。

- 子どもたちの興味・関心をひきつけやすいくだもの，文房具，おもちゃなどを準備して買い物ごっこをするようにしたい。このごっこを通して，買い物をする時に必要なことばや，おつりがいらなくて，しかも金額の少ない品物を買うなど，ごく初歩的な買い物ができるようにしたい。
- 買った品物を食べたり，使ったり，遊んだりする場面を工夫して楽しく学習させ，社会性を高めるようにしたい。
- 買い物をする場面では，子どもの能力に応じてお金の種類や金額を配分したり，品物の値段を変えたりして，ひとりひとりの能力に応じた指導ができるようにしたい。
- 実際にお店屋さんに見学に行き，どんな品物が売っているかを調べたり，値段札の読み方を学んだりしたい。
- 値段札を読むことが不得手な子どももいるので，どの子も値段札を見て必要な金額が出せるなど，教具を工夫して学習を進めていきたい。
- 学習を進めて行く時は，子どもたちの実生活にすぐ役立つように，1円から100円までの本物の硬貨を使うとともに，お金の大切さと保健衛生面についても配慮して指導したい。（紙幣は別の機会に扱う）
- 買い物ごっこの展開にあたっては，能力に応じていろいろな役割りをはたさせるようにし，

その社会性を伸ばすようにしたい。また，役割分担の反復練習をすることにより，お金の類別やことばの使用の面でも効果を上げられるようにしたい。

- 子どものことばが不明瞭であるので，本単元全体の学習を通して，できるだけ子どもの意志表示をはっきりさせるように励まし，ことばを正しく言うように随時指導していきたい。と同時に，あいさつや買い物に必要なことばをプリントにし，文字を書くことによって，正しいことば使いを知らせるようにしたい。
- これらの学習の総括として，実際にお金を子どもひとりひとりが持ち，お店屋さんに行って，自分の欲しい物を買うようにしたい。
- 学校での学習だけでは，そのまますぐに社会生活で役立つようになるとは限らないので，学校での様子を家庭に知らせ，買い物に行かせる時の参考にしてもらえるようにしたい。また，簡単な買い物はできるだけさせてもらうようにし，実生活の場で買い物を経験させるように留意していきたい。

3. 目　　標

(1) 値段札をみて，買い物をすることができるようにする。

(2) 買い物に必要なことばの使い方を身につけさせるようにする。

(3) 役割りを分担しあい，楽しく買い物ごっこをすることができるようにする。

4. 指導計画（全24時間）

	おもな学習内容	時間
導入 計画 準備	1. 買い物についての話を聞いたり，スライドを見たりする。 2. 学習のおおまかな計画を立てる。 3. 買い物ごっこの道具を準備する。（店の飾り，財布，袋など）	4
実施	1. 値段札を見てお金の出し方の練習をする。 2. くだものやさんごっこをする。 3. 文房具屋さんごっこをする。 4. おもちゃ屋さんごっこをする。	18 本時 (15/18)
反省	1. 実際にお店屋さんに行って買い物をする。	2

5. 本　　時

(1) 目　　標

能力に応じたお金の支払いができるようになるとともに，おもちゃ屋さんごっこのいろいろな役割を果たすことができるようになる。

個人目標

A・M（4女）…… 130円の値札を見て，100円と30円に分解して支払いができるようにするとともに，袋入れの役割を果たすことができる。

N・M（5男）…… 150円の値札を見て，100円と50円に分解して支払いができるようにするとともに，袋入れの役割を果たすことができる。

S・E（6男）…… 132円の値札を見て，支払いができるようにするとともに，おもちゃ屋さんの役割を果たすことができる。

T・S（6男）…… 123円の値札を見て，支払いができるようにするとともに，おもちゃの名まえのカードをすばやく出す役割を果たすことができる。

M・T（6男）…… 143円の値札を見て，支払いができるようにするとともに，お客さん役の子どもがあいさつのことばを言ったかどうか判定する役割を果たせる。

Y・K（6男）…… 50円の値札を見て，50円硬貨で支払いができるようにするとともに，お金の整理の役割を果たせる。

F・M（6女）…… 硬貨を貼りつけた100円の値札を見て，支払いができるようにするとともに，お金の整理の役割を果たせる。

(2) 指導に当って

子どもたちは，前時まで「くだもの屋さんごっこ」「文房具屋さんごっこ」「おもちゃ屋さんごっこ」を通して，買い物をする時のことば使い，代金の計算，それらを含めた「お店屋さんごっこ」を行なう際の役割の果たし方などを学習してきている。

本時は，単元の終末段階であり，主として次のような点に留意しながら，「おもちゃ屋さんごっこ」を充分楽しませたい。

ア．導入では，子どもたちの手で「おもちゃ屋」の準備をさせたり，買い物に行く順番をくじで決めたりする事により，展開への意欲づけを図っていきたい。

イ．買い物をする展開のところでは，子どもの好きなおもちゃを選ばせてから，能力に応じた値札を与えたり，計算手段を工夫して与えたりして，学習効果と楽しさのあい合わさった活動にしていきたい。

ウ．終末では，買ったおもちゃで遊ばせることにより，買い物の喜びと，おもちゃそのものの持つ楽しさを味わわせ，次時への意欲づけを図っていきたい。

(3) 準　　備

・店の台　・おもちゃ　・看板　・お金の整理板（類別板）　・くじ　・値札
・お金の写真　・氏名カード　・おもちゃのなまえカード　・ことばのカード
・○×のカード　・カセット（テープ）　・マイク　・財布（お金）　・紙袋
・セロハンテープ　・簡易遊戯場

(4) 実　　際

過程	学習の流れ	指導上の留意点	教師のはたらきかけ
意識化	1. 本時の学習について話し合う。 ・「かいものごっこ」の学習であること。 ・「おもちゃさんごっこ」をすること。 ・準備，買いもの，遊び，片づけをすること。	○学習予定表を読ませたり，前時までの学習を思いうかばせたりしながら，本時の学習の見通しをもたせ，活動への意欲づけを図っていきたい。	○子どもが買いものごっこにスムーズにはいっていけるように，店屋の場を設定してある。 ○子どもが考えやすいように，前時のことを思い出させたり，学習予定表を読ませたりする。
	2. 「おもちゃやさん」の準備をする。 ・おもちゃをならべる。 ・サイフを配る。 ・看板をかける。	○サイフは，Y・KとF・Mに配らせ，氏名の読み方の学習をさせたい。 ○看板は，Y・K に選ばせるとともに，他の子どもたちには注目させることにより，Y・Kの本時への意欲をひきたたせ集団の一員としての役割を果たさせたい。	○「おもちゃやさん」で買いものごっこをする際どんな用具が必要かを考えさせ，準備をさせる。 ○サイフを，F・M，Y・K に配らせる。 ○教師がわざと「文房具屋」の看板をかけ，子どもたちにそのまちがいを発見させた後，Y・Kにかけさせる。
	3. 買いものをする順番をきめる。 ・くじを引く。 ・氏名のカードをならべる。	○くじを見て，自分の順番をわからせることにより，買いものへの意欲づけを深めていきたい。	○くじの番号により子どもの買う順番をきめ，その順に氏名カードを黒板にはらせる。
	4. 役割の分担をする。 ・どんな役割があるか発表する。 ・指示に従い位置につく。	○口々に役割を発表させ，ごっこ遊びの素地を深めさせていきたい。 ○能力により，教師の側で役割を与えていきたい。	○「おもちゃやさん」ごっこをするのに必要な係を発表させる。 ○全員が活動できるように一人一役の係を与える。
内容方法の具体化	5. 買いものごっこをする。 ・決められた順番でお客さん役を呼び出したり，呼ばれたら店に行ったりする。 ・店員とお客のことばのやりとりをする。 ・ことばのやりとりが行われたか判定する。 ・おもちゃの名まえカードをならべる。 ・値段札を見て代金を出す。 ・もらったお金を類別して整理する。 ・おもちゃを袋に入れてわたす。	○進行係の子どもの指示で「おもちゃやさんごっこ」をさせたり，ことばのやりとりを判定させたり等，できるだけ子どもの活動を重視し，「ごっこ遊び」のふんいきをそこなわないようにしたい。 ○ことばが聞きとりにくいと考えられるので，ことば係に補助者（教師）がつく。 ○値段札は子どもの能力に応じて適切なものを教師の側で提示していきたい。 ○役割をする主な子ども S・E: 店屋，A・M: 袋入れ，T・S：呼び出し他	○買いものごっこが，できるだけ子どもたちの手でやっていけるようにルール（順番，買いものの方法）を確認させる。 ○店屋，客，袋入れ等の役割を随時交代させる。 ○「じょうずにできたね」「ありがとうをよく言えたね」等，子どもの活動を承認したり，ぎこちない子どもには簡単な指示やヒントを与えたりして買いものの方法を具体的にわからせ意欲づけを行う。 ○A・Mには分解できる値段札，N・M等には分解できない値段札をわたす。 ○Y・K，F・Mに交代で硬化分類板を使わせ，百円硬貨と十円硬貨を分類させる。
喜びの深化	6. おもちゃで遊ぶ。 ・買ったおもちゃで遊ぶ。 ・他のおもちゃも加えて遊ぶ。 7. 片づけをする。	○遊ぶ喜びを味わわせることで，生活へのつなぎ，ひろがりとしたい。 ○適切に行わせ日常のしつけにも役立てたい。	○「買いもの」の楽しさ，喜びを深めるために「買ったおもちゃで遊ぼう」と子どもたちに呼びかける。 ○遊戯場を設定したり，音楽を流したりして場のふんいきをもりあげる。
継続化	8. 反省をし，次時の予告をきく。	○子どもたちの望む「ごっこ遊び」を次時の学習へとしていきたい。	○本時のよくできたところ，もっと工夫したいところを話し，次時は何をしたいか話し合わせる。

児童・生徒の活動					
見る	聞く	話す	行動	表情	その他
・教師がわざと違う看板をかける。 ・それぞれの番号の下に名前カードがかけられるところを見る。	・教師の質問・説明を姿勢よく聞いている。 ・教師の指示・説明を静かに聞く。 ・教師の質問を注意深く聞く。 ・教師の質問を聞く。	・本時の学習について発表する。 ・教師がかけた看板を見て一斉に「違う」という。 ・教師の質問に対し一斉に「くじ」と答える。 ・「お店やさん」「袋入れ」等，それぞれの係を発表する。	・はじめのあいさつをする。 ・元気よく挙手する。 ・姿勢よくしている。 ・買いものごっこの準備をする。 ・手分けして並べる。 ・Y・Kが看板をかける。 ・くじを引き順番を決める。 ・自分の名前カードを番号の下にかける。 ・一斉に「ハイ」と挙手する。 ・各々，係の場所につく。	・S・Eは大あくびや背のびをし，退屈そう。 ・T・Sはすばやく挙手したり元気よく発表したり意欲的である。 ・みんな楽しそうに準備している。 ・うれしそうにくじを引く。 ・引いた番号を見て，喜ぶ。 ・それまで退屈そうにしていたS・Eは，自分の係がお店やさんになると非常にはりきる。	・A・MがY・Kに，N・MがT・Sに手伝っている。 ・係分担（随時交代） N·M: お客さん F·M: お客さん S·E: お店やさん A·M: 袋入れの係 Y·K: お金の分類係 T·S: 呼び出し係 M·T: ことばの判定係
・友だちが買いものをするところを見る。 ・買いものがすんだN・Mは買ったおもちゃをとり出して見ている。	・M・Tは，客になった子どもが買いもののことばをきちんといっているか聞いている。	・S・Eが「いらっしゃい，安いよ」と客をよぶ。 ・T・SがN・Mをよびだす。 ・客：「ごめん下さい。…を下さい。」 ・店：「いらっしゃいませ。」 ・客：「いくらですか。」 ・店：「…円です。」 ・客：「ありがとう。」 ・店：「ありがとうございました。」	・買いものごっこを始める。 ・N・Mは教師から150円の値段札をもらい，買いものにいく。 ・値段札を見てその数字の上に硬貨をのせて支払う。 ・A·Mは130円の値段札を100円と30円に分解しその上に硬貨をのせ払う。 ・Y·Kは100円，10円硬化を分類板で各々分類する（以下，順次係を交代）	・買いものをする番が回ってくると，どの子もうれしそうに買いものに行く。 ・F・Mは買ったおもちゃを袋からとり出し，うれしそうにしている。 ・自分の係の活動がないときには退屈そう。 ・T・Sは教師にじょうずに買いものができてえらいねとほめられてうれしそう。	・M・Tは，Y・Kが言語不明瞭なため，Y・Kに付きそって店に行き買いものの手伝いをする。
・ほとんどの子どもが自分のおもちゃで遊ぶのに没頭し，まわりに目がいかない。	・教師の話を聞く。 ・F・Mは買ったおもちゃが気になるらしく，あまり話は聞いていないようす。	・N・M，S・Eは，おもちゃの擬声音を発し，何か話しながら遊んでいる。	・買ったおもちゃを使い，遊戯場で遊ぶ。 ・ほとんどの子どもが一人遊び。	・M・Tはおもちゃをもち，うろうろ動き回る。 ・遊ぶ相手のいる子どもは楽しそう。	・場が教室の前に設定してあったお店屋さんから，後ろの遊戯場に移る。 ・カセットの音楽が流れる。
	・教師の指示を聞く。	・次時にしたい買いものごっこを発表する。	・おわりのあいさつをする。		

(5) 考　　察

授業記録を省みながら，小学部としての「動き」を導き出すための方策の中から，主として，「教材教具の工夫」「ごっこの役割分担」について述べ，それらをより効率的に役立たしめるためのものとして「学習のパターン化」「適切な発問と指示・承認」について若干ふれていくことにする。

教材教具の工夫

ここでは，児童の興味・関心をひき意欲的な学習に取り組ませるものとして，また具体的な操作をとおして思考を深めていく手段として教材教具というものを位置づけてきている。

主なもののひとつは，板磁石の活用により合成分解できる値段札である。これは，値段札を見て，それに合った金額を出すという目標を達成させるために用いられたものである。この値段札を分解し，分解されたその上に硬貨を載せていき支払いの金額とみなす児童，また分解の方法に慣れ，分解できない値段札の上に硬貨を載せることにより支払いをする児童，さらには値段札の上に硬貨を載せる方法ではなく，それを見て硬貨の種類別に支払いをするまでに単元の学習の中で高まってきた児童も観察されている。

主なもののもうひとつは，硬貨の分類板である。これは，硬貨の類別が充分できない，または，硬貨にふれる機会に乏しい児童に対して，その機会を増やすことにより類別を徹底してできるようにさせたいということで用いたものである。その教具を用い始めた単元の初めのころＹＫは類別する場所を時々まちがえている。その時，他の児童が，「Ｙ君，１円，ここ」という言葉とともに援助したりしている。このような繰り返しにより，ＹＫは，本時の学習において与えられた硬貨の整理係をスムーズにこなしている。また，その効果は，彼の値段札を見て硬貨１枚で支払いをすることが次第にスムーズに行われてきていることにも表われている。

主なふたつの教材教具の活用について述べてきたが，このように児童それぞれの能力に応じて個人ごとの課題を解決していったようである。またこの学習の発展として行った購買部での買いものでも，教室におけるそれと同等の活動が，前述したいろいろな値段札の活用により行われている。このことから，本学級の児童へのこれらの教具の与え方は適切であったと考える。しかしながら，彼らが，社会の中で買いものができるようになるためには，値段を店員から聞いて，支払う方法，また，おつりをもらい，それを確認する方法など残された課題はいまだ多い。これらの解決については，よりいっそうの家庭との連携による実際の買いものの経験が重要であるとともに，学校での学習における，このことへの解決をめざした教材教具の開発もまたわたしたちの研究課題として重要である。

ごっこの役割分担

興味の移りやすい多動な児童に対し，学習への参加をうながす手段として，また，ひとりひとりの児童がごっこを成立させているという役割意識をもち，そのことがごっこ自体をより変化の多い，楽しいものへとしていく，さらに，児童どうしのかかわりあいを，そうせざるを得なくなる状態に置き，社会性を高めていくなどの理由により，このごっこの役割分担というものを位置づけてきている。

ここでは，ごっこの進行係，お店やさん，言葉のカード係，お金の整理係，袋入れの係といったものを役割として一定し，それを児童の能力に応じてかわるがわる分担させていった。単元の最初の頃には，役割を果たす方法がよく理解されていないため，教師の手助けを必要としたが，単元が進むにつれ，その方法を，教師から学んだり，友だちの模倣をしたりして，よりスムーズに行えるようになってきている。また役割と役割の連係も同様に次第にうまくいくようになってきている。また本時の授業記録にも見られるようにＳＥは，自分の役割の係が決まるまでは，大あくびや背のびをして退屈そうであるが，それが決まると我然，張りきって学習に取り組んでいる。また他の児童も，同様の活動情況を示している。

このように集団の活動の中に役割を設け，それを分担していくことは，児童個々人の意欲を喚起させ，個々人の活動を総合させたものとしての集団の活動自体をも活気ある，かつ質の高いものへとしていっているようである。さらに役割分担という方策が発展したものとして，学級集団の交遊関係をより深めるために役立つことが，自閉傾向のあるＭＴ児のその後の交遊する友だちの広がりや，学級全体の自主的話し合い活動による集団での活動，例えば，給食の準備配膳，教室のそうじなどを教師の指示なしに始め，終えるということに観察することができる。今後はさらにこの役割分担を学校生活のあらゆる場面で，例えば「朝の会の時間」等でも可能な限り活用すべきであり，そうすることにより，前述したような効果がより広がっていくものと考える。

以上，教材教具の工夫および，ごっこの役割分担について「動き」を導き出す方策として実践の結果から述べてきた。この教具の操作にせよ，役割を果たす活動にせよ，前述してあるように単元が進むにつれ，児童は前時の学習の作用により本時では，それらをスムーズに行えるようになってきている。そうなることにより目標が次第に達成されていくと考えれば，学習過程のパターン化ということは，精神遅滞児を指導するに当たっては欠かせないことであると考える。ただ，新しい適切な刺激をいつ，どのくらい，個に応じて与えていくのかという問題は今後の研究課題として残されている。また，教師による児童全体への，また個人への発問，指示，承認の適切な与え方が，児童の学習意欲を喚起するものとして，教材教具，役割分担とのからみの中で，適切に行わねばならないことは言うまでもない。ＴＳ児が，買いものが上手にできたことを教師からほめられ，うれしそうであるという授業記録，および，ごっこの後片づけまで意欲的に取り組んだという事実が，一端としてそのことを裏づけている。